4K 子ども食堂

大宮国際中等教育学校　6 年

代表者:円尾　幸太郎

野本　翔生　　村田　一眞

【活動概要】

私たち 4K 子ども食堂は、埼玉県さいたま市で子ども食堂を立ち上げ、運営を行っている。この活動を行うにあたって、地域の貧困化や食品ロス、不登校などの社会課題に着目している。特に食品ロスについては、地域の農家の方から出る規格外野菜を無料で受け取り、それを自らの手で調理することで減らすことができている。

私達の子ども食堂では、高校生が自ら調理を行い、子供達やその家族に温かいご飯を無料で提供している。調理を行うにあたり、私達は保健所にて衛生管理等の指導を受けてきた。それに加え、地元で飲食業を営むシェフの方に協力していただき、子供が安心して食事を楽しめるようなレシピの考案や食堂当日の調理の手伝いをしていただいている。そのため安全性が担保された食事を提供することができ、子供達やその親が安心して食事を口にすることができている。

写真①規格外野菜の一例

4K 子ども食堂は、私達高校生が主体となって立ち上げ、運営を行っているからこそ実現できていることが多くある。子供世代に近いことで、大人にはわかりづらい子供ならではのニーズや感情を理解することができ、さらにそれらのアイデアを直接形にしやすいと思う。また、高校生が運営を行っていることで子供達にとって、大人よりも話しやすい存在として、子供達の本音や困りごとを聞けたり、子供達が心を開きやすく、親しみやすい雰囲気を作り出せたりする。また、それによって子供達の教育に関する課題も解決することができる。食堂に子供達が宿題を持参し、私達高校生が勉強を教えることで、勉強の楽しさや自主的に学ぶ姿勢をより身近で教えること ができている。 特に私たちが通うさいたま市立大宮国際中等教育学校は国際バカロレア認定校ということもあり、私たちは日常的に高い英語教育を受けることができている。そのような経験を子ども食堂に還元し、英語を効率的に学ぶ方法や英検の取得方法などを教えている。このように「私達だからこそできること」をこの子ども食堂で行うことを日々心掛けている。

写真②活動の様子

定期的に子ども食堂を開催することで、子供達に栄養バランスのとれた食事を提供し続けることが可能となる。また、普段は関わることのない子供同士や親同士の新たなコミュニティづくりの架け橋となることを目指している。

【きっかけ・活動目的】

この子ども食堂が始まったきっかけは、私たちが興味を持つ社会課題にある。昨年 5 月に 4K が発足するまでの約 2 年、食品ロスや地域創成、教育などお互い違った社会課題に目を向け、持続可能な社会の実現に向けてそれぞれ別のプロジェクトを行ってきた。そんな中で今年度このメンバーが集結し、各々が考える課題を解決できる方法として、「子ども食堂」を選んだ。食品ロスについては、食堂内で使用する野菜の多くを地域の農家の方から出る規格外野菜を使用することで解決しようと考えた。また貧困化については、地域に住む支援が必要な人を招待することで解決できる。また、食堂で多くの人が出会い、交流することができるという点で地域創成も行える。以上のことから、貧困による食糧難の改善だけでなく私たち三人の目標を達成しながら地域を盛り上げることができるという点で、「子ども食堂」を一から運営することに決めた。

私たちは活動目的として「心と夢まで満腹に」というスローガンを掲げている。これは単に子供が食事をするような子ども食堂ではなく、参加者同士で夢を語り合えるような居場所づくりを目指している。また、近年社会課題として挙げられている地域コミュニティの衰退を解決するために、幅広い世代の地域の人が集まれる

子ども食堂を目指している。

〇活動の広がり

写真③農家さんとの写真(1)

子ども食堂を開催するにあたって 4K 子ども食堂は様々な外部団体との協力を行っている。外部団体と協力することによって、高校生だけでは解決することのできない課題を地域の方に声を掛けながら解決してきた。

例えば、食堂の開催に必要な規格外野菜を地域の四軒の農家の方から提供していただいている。この活動を始めるに際して、私たちから農家の方々に SNS を通じて協力を依頼した。連絡のとれた農家の方は実際に農園を訪れて、4K 子ども食堂についてプレゼンテーションを行った。協力できる部分と協力できない部分を話し合いながら、活動についてのアドバイスも頂いた。アドバイスの内容は、農家の方が規格外野菜を採るのは手間になってしまう場合があることだ。持続可能な活動のために、農家の方と話し合いながら現在も継続的に支援をしていただいている。

写真④農家さんとの写真(2)

また、私達は埼玉県さいたま市に拠点を置き、地域づくりなどの活動を主に行う認定 NPO 法人みんなの夢の音楽隊に協力をしていただいている。この団体とはフィジカルスポンサーシップという独自の契約を締結している。これはこの団体が私達 4 K の寄付金を受け取る窓口になっていただくものだ。この契約によって現金だけでなく銀行口座からの寄付の受付ができるようになり、幅広い方法で寄付金をいただくことが可能になった。現在は一口 1,000 円から寄付金を募っており、活動に協賛してくださった地元企業の社長さんなど 4 名の方から 28,000 円いただいた。この寄付金は食材費等で使用している。

写真⑤認定 NPO 法人みんなの夢の音楽様

また、フードバンク埼玉の協力も得ている。フードバンク埼玉からは、常温保存可能な食品を提供していただいている。フードバンク埼玉の協力を得ることによって、子ども食堂に必要不可欠である食材を、無償で得ることが出来ている。このことにより、私達は無償で子供達に食事を提供することが可能になった。

【活動内容】

①子ども食堂の運営

私たちはさいたま市で子ども食堂の立ち上げをし、運営を行っている。この子ども食堂では、食品ロスなどの前述した地域課題を解決することを目指している。私たちはこの子ども食堂を一か月に一度のペースで開催しており、毎回 30 人前後の人々に食事と遊び、そして学びの場を提供している。また、所得制限を設けず誰もが気軽に来ることができるようにしている。そのため地域に開かれた子ども食堂の運営を行うことができており、より多くの人がつながることができる場を提供している。地域の子供達が集まり、高校生ボランティアスタッフと一緒に時間を過ごしている。会ったことのない子供同士が一緒に遊べるように、簡単に遊べるゲームなどを用意して、子供同士のコミュニティの広がりにも力を入れている。

②農家の方との連携

私たちの子ども食堂では、農家の方から出る食品ロスを減らすことを一つの目標として定めている。地域で活動をする農家の方と連携をし、規格外野菜を子ども食堂で使用するためにいただいている。農家の方は季節の旬に合わせて野菜を作るため、そのような野菜を子ども食堂で使用することで子どもたちが旬や四季を感じることができる。また、農家の方と連携をして”食育”に関する農業体験を実施することで、食事のありがたさや農家の方が行っている作業を子供たちが感じることができる。それに加え、地元で活躍する農家の方を宣伝することで、そこの野菜を子ども食堂で食べた参加者が「おいしい」と感じ、「そこの農家の野菜を買ってみよう」と思うようになる。その結果、農家の方の利益が上がるとともに、生産者と消費者という地元民のつながりをより強固なものにすることができる。

③地元で活躍する人々との協力

農家の方に加え、さいたま市で活動をしている画家の方やシェフの方に協力をしていただいている。画家の方には子ども食堂でご飯を食べた後に「画家体験」を催してもらう。これによって子供たちは学校ではできないような特別な体験を無料で気軽に経験することができる。また、画家の方も「子どもたちから学ぶことが多い」というように日々の活動の刺激の場となる。また、地元で飲食業を営んでいるシェフの方にも協力をしていただいている。調理の際に高校生だけでは不安に感じる保護者の方も少なくないと考え、プロのアドバイスのもと安全に料理をしている。また、子どもたちが野菜を好き嫌いすることなくバランスよく摂取するための方法などを教えていただき、子供達や地域に住む人々の健康的な体づくりをサポートするのに協力していただいている。

写真⑥地元のシェフの方と一緒に料理する様子

【SDGs と関連付けた活動】

私たちは現在、子ども食堂の運営を通じて、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）のうち、四つのゴールの達成に貢献することを目指している。私たちの活動は、ただ食事を提供するだけでなく、地域社会の課題に向き合い、持続可能な仕組みづくりを大切にしている。

一つ目は、Goal 1「貧困をなくそう」である。子ども食堂に訪れる方々の中には、経済的に困難な状況にある非課税世帯の方も多く含まれている。そうした方々に対して、温かい食事を無料で提供することは、直接的な経済支援となり、日々の生活を少しでも楽にすることにつながっている。特に、現在の日本においては、表面的には貧困が見えにくい「見えない貧困」が広がっており、行政の支援が十分に行き届いていない家庭も存在する。私たちはそのような現実に対し、一時的な支援に留まらず、月に一度という定期的な開催を通じて、継続的な支援の場を提供している。これにより、困難な状況にある家庭が孤立せず、安心して来られる「居場所」として機能することを目指している。

二つ目は、Goal 2「飢餓をゼロに」である。日本は先進国であるにも関わらず、実際には約 9 人に 1 人の子どもが満足に食事を摂れていないという統計がある。このような“見えない飢餓”に対して、私たち高校生や地域のボランティアの協力のもと、栄養バランスの取れた温かい食事を手作りし、提供している。毎回の献立には、成長期の子どもたちに必要な栄養素が過不足なく含まれるように工夫を凝らしている。また、ただ空腹を満たすだけでなく、「食を通じた心の満足感」も大切にしており、食堂内では家族や地域の人々との交流の場として、温かな雰囲気を育んでいる。

三つ目は、Goal 4「質の高い教育をみんなに」である。私たちの子ども食堂では、ただ食事を提供するだけで

なく、食後の時間を活用して、高校生ボランティアが子どもたちの宿題を見たり、勉強のサポートをしたりする時間を設けている。非課税世帯の子どもたちの中には、家庭の事情により十分な学習環境が整っていない場合もある。そうした背景を踏まえ、私たちは誰もが平等に学べる機会を提供したいと考えている。また、地域の農家の方々と連携し、農業体験などの学校ではなかなか得られない機会も設置している。これにより、子どもたちは自分の可能性に気づき、視野を広げるきっかけを得ることができている。

最後に、Goal 12「つくる責任、つかう責任」である。私たちの子ども食堂では、地域の農家の方々と連携し、通常の市場には出回らない「規格外野菜」を積極的に活用している。これらの野菜は見た目に少し傷があったり、大きさが不揃いであったりするものの、味や栄養価にまったく問題はない。しかし現在の食品流通の仕組みでは、それらが廃棄されるケースが多く、深刻な食品ロスの一因となっている。私たちはこのような状況を少しでも改善するため、農家の方々に協力を依頼し、食堂の日に合わせて規格外野菜を提供していただいている。さらに、農家の方々を実際に食堂にお招きし、感謝の気持ちを込めて温かい食事を無料で提供するなど、協力の輪を大切にしている。また、農作業のお手伝いに参加するなど、支援を一方的に受けるのではなく、相互的な関係性を築いている点も、私たちの活動の特徴である。このように、私たちの子ども食堂は、単なる福祉活動にとどまらず、地域の課題に寄り添いながら、多くの人々とつながり、学び合い、助け合う「共助の場」として機能している。今後も、SDGs の理念を実践的に体現しながら、持続可能で誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて活動を広げていきたい。

【成果】

活動の成果として、月に一回程度の子ども食堂の開催を継続することができている。食事を提供するだけにとどまらず教育などに力を入れているという観点で、目標である「心と夢まで満腹に」を少しずつ達成することができている。また、その活動が評価され、「高校生新聞 Online」に掲載させていただいた。活動の認知と、多くの学生に向けて、地域課題解決の価値について共有することができた。さらに、子ども同士の交流の場を提供することで、子供たちの新たなコミュニティを形成することができた。また、子ども世代だけでなく祖父母世代など幅広い年齢層の交流を持つことができた。当初は子どもや親世代向けの食堂開催を考えていたが、幅広い世代が食堂に来ることで、今までにない交流が新たに生まれ、更なる地域コミュニティの活性化につながったのではないかと考えた。

【今後の展望】

今後の展望として、地域の人への宣伝を増やしていきたい。現段階では公民館や児童館にポスターを掲示して宣伝活動を行ったり、Instagram を活用して広報を行ったりしている。しかし、私たちは地域の「誰でも」参加できるような子ども食堂を目指している。ポスターや Instagram を見る機会のないような地域の人に向けて、子ども食堂の存在を知ってもらうために呼びかけを行っていきたい。例えば実際に街でチラシを配布したり、小学校にチラシを持って行ったりしてより多くの人々に私たちの子ども食堂の存在を知ってもらいたい。さらに、運営システムの改善を行っていきたい。現在は寄付金や、フードバンク、農家の方からの寄付、ボランティアスタッフなど多くの方からのサポートによって成り立っている。今後の活動をより持続可なものにするために、運営メンバーを増やしたり、協力いただける農家の方を増やしたりしたい。

写真⑥広報用のポスター